

2009年度MHB研究大会

## オーストラリア、クイーンズランド州南東部 における継承語としての日本語教育



マルヴィー菜穂子  
クイーンズランド大学  
chuzantigers@yahoo.co.jp

## 目的

- 日本語教育の実態調査
    - オーストラリア永住者
    - 親の少なくとも一人が日本生まれの日本人である子供
- 英語を媒介に社会生活・教育
- 継承語としての日本語維持のため週末学校へ
- 学校の教育状況を明らかにする
  - 学校の参与参観・文書にもとづいたデータ

## 検討対象の学校

クイーンズランド南東部にある2つの学校

- クイーンズランド日本語補習授業校
- ブリスベン日本学園



## 1. 背景

- オーストラリアにおける日本人とその教育
  - オーストラリアにおける継承語教育
  - オーストラリアにおける日本語教育
- ## 2. クイーンズランド日本語補習授業校
- ## 3. AHES (After Hours Ethnic Schooling) プログラム
- ## 4. ブリスベン日本学園
- ## 5. 考察
- ## 6. 結論

## 背景-オーストラリアにおける日本人とその教育

- オーストラリアへの移住19C後半開始
- 1901年連邦成立時 - 約3600人 (Shobara, 2004)
- 第二次世界大戦前、日本人のための学校なし (Nagata, 2004)
- 戦後、白豪主義のため日本人強制送還→日本人社会ほぼ消滅 (Nagata, 2004)
- 1950年代「戦争花嫁」
- 1966年-移民政策の転換-以後、日本人の居住者再び増える

## 背景-オーストラリアにおける日本人とその教育

- 日本人子弟のための学校を望む声
- 日本政府 帰国予定者の海外駐在の日本人子弟に教育の機会を与える政策
- 補習授業校
- 1968年パース、1972年メルボルン
- 日本人学校 1969年シドニー

## 背景-オーストラリアにおける継承語

- 「コミュニティーランゲッジ」と呼ぶことがある
- 1970年代、同化政策→多言語・多文化主義以後、継承語に肯定的な立場
- 現在国の天然「資源」とみなし、保護、奨励  
-アメリカのRuiz (1984)の提言-

7

## 背景-オーストラリアにおける継承語教育

- *The National Statement for Languages Education in Australian Schools 2005-2008*  
(MCEETYA, 2005) 継承語を教えるエスニックスクールの役割
- オーストラリア連邦エスニックスクール協会の管轄下、コミュニティーランゲッジオーストラリアが全州・全特別地域のエスニック／コミュニティーランゲッジスクールを総括
- 全土に1000校以上、100,000名以上が在籍、69種類の継承語教えている  
(Community Languages Australia)

8

## 背景-オーストラリアにおける日本語教育

- 外国語としての日本語教育さかん、最も多く学習者がいる外国語
  - 1980から1990年代「津波」現象
  - 学習者37万人中、97%が初・中等教育における学習者  
(国際交流基金, 2008)
  - 日本語の「日常化」
- 継承語としての日本語教育
  - 1990年代から浮上  
(Lo Bianco, 2000)
  - 日本語話者数  
(オーストラリア国勢調査)  
1996年 25,667人  
2001年 28,059人  
2006年 35,110人
  - エスニックスクールで8番目に多く教えられている言語  
*An Investigation of the State and Nature of Languages in Australian schools in 2005* (DEEWR, 2007)

9

## 背景-オーストラリアにおける日本語教育

期待と懸念:

- 連邦政府のアジア言語(日本語、中国語、韓国語、インドネシア語の4言語)奨励政策
- 4つのアジア言語のバックグラウンドスピーカーにのみ課せられる高度の高校卒業試験 - NSW
- ナショナルカリキュラム(2011年施行)  
4つのアジア言語のための高校卒業試験に「ヘリテージコース」開発プロジェクト進行中

10

## クイーンズランド日本語補習授業校

- 1976年クイーンズランド初の週末日本語クラス
  - ボランティアグループ
  - 永住者・駐在者の日本人子弟の教育のため
- 開校後まもなく...  
帰国予定・海外駐在者の子弟の教育を日本政府が経済的に支援



補習授業校に名前を変更

11

## 補習授業校

- 2008年時点 55カ国に約17,000名が在籍する201校の補習授業校  
(文部科学省, 2009)
- 日本の検定教科書使用
- 学習指導要領に基づいた、日本の学校と同様のカリキュラム



12

## クイーンズランド日本語補習授業校

- 毎週土曜日午前中・年間40日
- 国語と算数／数学を80分ずつ
- 1992年以来、文部科学省からの校長派遣（オーストラリア唯一）
- ブリスベン校とゴールドコースト校（学校会計はそれぞれ独立、教育内容同じ）
- 設置者：ブリスベン日本クラブ／ゴールドコースト日本人会（2つの設置母体を持つ）
- 運営主体：クイーンズランド日本語補習授業校運営委員会（それぞれの保護者会、日本人会の代表）
- 法的には私立学校
- 総生徒数：400名以上（クイーンズランド日本語補習授業校、2009）

13

## 継承語学習者の現状 クイーンズランド補習授業校において

- 長年、クイーンズランド南東部唯一の日本人子弟のための学校→多くの継承語学習者
- 継承語学習者の多くは...
  - 補習授業校のカリキュラムについていくのが難しい
  - 読み書き能力低い
  - 学年配当の漢字学習困難→漢字教授をあきらめている教師もいる
  - 日本語の指示が理解できない生徒もいる
  - 途中退学者が多い
  - 補習授業校のカリキュラムに十分対応して、卒業する生徒もいる（保護者の強力なサポートのもと）

14

- 永住者子弟のためのエスニックスクールを望む声高まる



国際交流基金  
文部科学省

- 日本政府には、海外永住者の子弟が継承語としての日本語を学習するのを援助する機関がない

15

## AHES (After Hours Ethnic Schooling)プログラム

- クイーンズランド教育省、LOTE(英語以外の言語)プログラムの一つ
- 2006年発足
- クイーンズランド州での継承語を教えるエスニックスクールを総括する公式機関
- 州内で64以上のエスニックスクールを援助
- AHES校に認定されると
  - 公立学校の教室の無料借用
  - 学校保険の加入費を教育省が負担
  - 生徒数に応じた補助金
- 教育省の指示に従う足かせあり

16

## AHES校認定のために

- 書類の提出、AHESワークショップ参加
- どの言語にも翻訳して使えるという言語共通モジュール教材 *Framework for a Language Program* をある程度使う必要あり
  - クイーンズランド教育省が開発
  - 教育省政策
  - 現地校の言語教育のシラバスに沿う
  - コミュニケーション重視
  - タスクベース
  - 学習成果がみやすい
  - 学習者中心
  - デジタル盤があり、英語の部分を翻訳してそのまま使うように指導

17

## AHES モジュール一覧

※ 2つ以上の分野に属する番号はモジュール番号

分野	モジュール	
個人やコミュニティの生活	1. I'm an Individual 2. Life around me 6. Family life 7. The outback *	13. Local news 17. Famous people 21. Living in Australia
余暇、レクリエーション	5. Weekend fun 16. Healthy living	19. Music
自然界	3. Animals at home and across the world 7. The outback * 9. Weather	15. National parks 18. Air, soil, water on our planet 23. Natural resources / Natural disasters
建造物	8. Home sweet home 10. Transport	14. Town planning 20. Inventions
国際社会	4. Australia - one country, many lifestyles 12. Seasons around the world 22. Import / Export	
想像の世界	11. Fabled characters, enchanted places 24. Living on the moon and other strange places	

18

## ブリスベン日本学園



- 日本語のエスニックスクール
- AHES校として2006年7月開校
- 保護者を中心としたボランティアが運営するNPO
- 土曜日の午後、公立高校の教室で授業
- 生徒数：開校時2クラス約20名→3年で5クラス80名

AHES校として継承語日本語を教える難しさに直面

19

## 考察:AHESのモジュールを使う難しさ

- 言語共通教材の限界  
英語話者が作ったもので日本語・日本文化を教える限界、絵カード、フラッシュカード



- 日本語を教えるのに使えるものを選び出すより、一から作った方がいい

20

## 考察:AHESのモジュールを使う難しさ

- 幅広いピック・語彙・知識は教えられるが、文法を教えるが難しい



- 日本語能力検定3級の全文型をモジュールに分配し、文法を教える試み
- 継承語学習者の文法習得課程が外国語学習者と違う(Kondo-Brown, 2005)
- 継承語学習者に適する文法の教え方を模索中

21

## 考察:継承語学習者を教える難しさ

- 日本語能力の幅広い多様性(Douglas, 2006)
  - それぞれに違う未開発の領域(Chevalier, 2004; Douglas, 2006)
- 継承語学習者の日本語力  $\alpha$   
教養ある母語話者の日本語力  $\geq \alpha$   
 $\geq$  外国語学習者の日本語力
- 継承語日本語教育の内容や教授法が決まっていない(Sasaki, 2001; Douglas, 2006; 片岡, 西山, 陸山, 2001) 一因
  - 学習意欲低い(ダグラス, 2006)
  - 読み書き力低い(中島, 1988)  
書きクラス・日本語能力検定・漢字検定

22

## 考察:エスニックスクールか補習授業校か

- 補習校に通う継承語学習者アメリカにも多い
  - 日本語能力が極端に低いのは継承語学習者が多い→彼らのために補習校のカリキュラムを見直す必要あり(Katataka, Koshiyama & Shibata, 2006)
  - 継承語学習が補習校カリキュラムについていくのが難しい理由  
日本語語彙、背景知識、漢字力不足(Nagaka, 1998)
  - 検定教科書は非漢字圏で育った生徒に適さないのではないか(ダグラス, 2002)

23

## 考察:エスニックスクールか補習授業校か

- クイーンズランド補習授業校  
保護者会の要望により、途中退学者数を減らす目的で、2009年4月より日本語力補強が必要なクラスを設置  
補習授業校の枠組みの中で日本語力を指導する試み
- 疑問・補習授業校の枠組みで日本語力補強ができるか？
- 学年相当の教科書を一年で終わらせなければならない  
学年配当漢字を教えなければならない

24

## 考察: エスニックスクールか補習授業校か

- ブリスベン日本学園は...
    - 継承語学習者に焦点をおいた教育
    - 日本人コミュニティの中で、存在が認められてきている(生徒数増加)
    - 継承語日本語教育の内容や教授法が決まっていない現状
    - 継承語学習者を教える難しさに直面
- 学習者の学習意欲をそそる、継承語としての日本語力を向上させるプログラム作りが急務

25

## 考察: エスニックスクールか補習授業校か

- 保護者の役割
    - 自分が勉強した「国語」ではなく、子供は「継承語」を学習している認識
    - 英語が第一言語で、日本語は現地校の勉強に加えてさらに大きな負担であること認識
    - 子供の日本語力、日本語環境を再認識
    - 将来の日本語の達成目標を見定める
- 適切な学校を選び、サポートする必要あり

26

## 結論

- 継承語学習者の言語能力の幅広い多様性
- 2つの学校が存在し、選択できることは意味深い
- 親の正しい認識・適切な選択・サポートが大切
- 今後の課題
  - 天然資源を無駄にしない、役立つ日本語力を養う継承語日本語教育プログラム作り
  - 日本人の親・日本人コミュニティへの啓蒙活動

27

ご清聴ありがとうございました。

ご質問、ご指摘などよろしくお願いいたします。



28